総合教育センターだより
Kyoto Prefectural Education Center
107
平成30年８月17日（金）
第107号（通算190号）
京都府総合教育センター
TEL：075-612-3266

さらに「一歩先の学び」へ

申込期間　8/27（月）～9/20（木）

11月・12月講座　PICK UP

各分野のトップランナーから学ぶ講座を多数開設！次につながる学びを通して、さらに一歩前進！

862	**企業から学ぶ特別講座－伝統を守る経営哲学に学ぶ－（企業連携）** 亀屋良長株式会社　吉村良和　代表取締役 アクセルコンサルティング株式会社　岡原慶高　代表取締役 指標　ステージ２（中堅期）・基本的資質能力	11月２日（金） 京都商工会議所	**老舗の技や理念**を継承しつつ、時代の変化に合わせた取組を行ってきた講師の経験から学び、その講義内容をグループでの意見交換を通してさらに深め、**教職員としての充実した業務**につなげます。
523	**教育相談＜中級＞講座Ⅰ** **－事例を通して深める子どもの理解－【領域①】（Web＋）** 京都教育大学大学院連合教職実践研究科　小松貴弘　教授 指標　ステージ２（中堅期）・生徒指導、専門領域	11月５日（月） 総合教育センター 14:30開始	事前に京都教育大学教職キャリア高度化センターのWeb講義**「アセスメントを通して子どもたちと向き合うこと」**を視聴し、**「Web講座提出レポート」**の作成が必要です。詳しくは教職員研修計画P37を参照。
713	**学級・授業づくりのためのカリキュラム・マネジメント講座** 奈良教育大学　赤沢早人　教授 指標　ステージ１（初任期）・マネジメント ※初任期のうち、６年目の者は受講することが望ましい。	11月９日（金） 総合教育センター	教育課程を軸に学校教育の改善・充実・好循環を生み出す**「カリキュラム・マネジメント」**。初任期のまとめとして、その手法を生かした学級づくり、授業づくりについて学びます。
514	**京の教育「みやび」講座** 朗読家・女優　山下智子 平安雅楽会 指標　ステージ２（中堅期）・京都ならではの教育	11月27日（火） 総合教育センター	京ことばによる源氏物語の語りと雅楽。**平安時代の文化を彩る二つの文化体験**を通して、京の伝統文化を学びます。また、それらの体験を授業につなげるカリキュラム・マネジメントの視点についても学びます。
534	**特別支援教育「読み書きが困難な児童生徒への指導・支援」講座** **－通常の学級と通級指導教室をつなぐ－** 東京大学先端科学技術研究センター　近藤武夫　准教授 指標　ステージ２（中堅期）・人権	12月４日（火） 北部研修所	読み間違いが多い、文字が正しく書けない…。**読み書き困難のある子どもたちへのＩＣＴを活用した支援**について学びます。参考資料はこちら⇒

子どもたちのＳＯＳを見逃さない

－教師が知っておきたい子どもの自殺予防－

平成27年度内閣府「自殺対策白書」により、特に**夏休み明けに18歳以下の自殺が急増する**傾向が明らかにされました。平成18年の自殺対策基本法の施行により、各自治体に相談窓口が整備されたことを背景に自殺者全体の数は減少傾向にあるものの、自殺した児童生徒数は依然として多い状況があります。

毎日のように子どもに接している教員の皆さんこそが、**子どもたちの心の叫びを最初に受け止めるゲートキーパー**でもあります。一人でこの問題を抱え込まずに、周囲の同僚たち、子どもの家族、医療従事者などと協力して危機に向き合っていきましょう。

参考資料：平成21年文部科学省「教師が知っておきたい子どもの自殺予防」

危険性を早期発見　～様々なサインと取組～

極端な完全主義である子どもや、離別、死別、失恋、病気、急激な学力低下、予想外の失敗などの喪失体験がある子ども、友達とのトラブルやいじめなどで孤立感を抱いている子ども、安心感のもてない家庭環境にある子どもは自殺の危険性が高いと考えられています。

これらの特徴が認められる子どもに、普段と異なる行動がみられた場合は注意を払う必要があります。**自殺のほのめかし、行動・身なりなどの突然の変化、自傷行為など**が自殺のサインの例として挙げられます。

こうしたサインを早期発見するため、家庭訪問や学校内外の集中的な見守り活動など、**子どもたちの心身の状況の変化の有無**について注意することが大切です。

危険への対応　～信頼関係、チーム対応、機関連携～

まず**子どもとの間に日頃から信頼関係を築いておくこと**が大切です。また、自殺の危険が高まった子どもと接する際、教員自身が不安になり、「大丈夫、大丈夫！」と安易に励ましたり、「そんなことを考えるな！」と否定したりしがちになります。**「ＴＡＬＫの原則」**を参考に**子どもの話に耳を傾け、心配している気持ちを伝えましょう。**そして、決して一人で抱え込まず、**学校全体のチーム対応や子どもの家族、医療機関・専門機関と連携していくこと**が重要です。

TALKの原則
(1)Tell：言葉に出して心配していることを伝える。
(2)Ask：「死にたい」という気持ちについて、率直に尋ねる。
(3)Listen：絶望的な気持ちを傾聴する。
(4)Keep safe：安全を確保する。

学びの直送便

今回の「学びの直送便」は、「子どもたちの多様な学びの確保」、「生徒指導の機能を生かした学級づくり」など、2学期の実践に直接つながる2講座の学びを紹介します。

子どもたちの多様な学びを確保するために

2年目教員「ステップアップ１」講座ab（7/30、31）

講師：京都府教育委員会認定フリースクール「学びの森」　北村真也　代表

２年目の教員が自己の課題に応じたテーマに取り組み、自立的な課題解決能力を養い、教育実践の資質能力を高めることを目的に本講座を実施しました。

本講座で取り上げた今日的な教育課題の一つが**「個々の児童生徒の実態に応じた支援」**です。全ての児童生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的に自立することを目指していくためには、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通せるような授業づくりや、個々の状況に応じた支援が必要です。

また、平成28年12月に**「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」**が公布され、教育機会の確保等を総合的に推進することが求められています。

そこで本講座では、京都府教育委員会認定フリースクール「学びの森」北村真也代表から、子どもたちが学びを通じて自信を取り戻し、多様な関わりの中で将来を前向きに考え、自らの人生を切り拓く力をはぐくむ取組について講義いただきました。

児童生徒を深く理解し、その小さな変化を見逃さず、**愛情と信頼と期待で包み込みながら、受容的・共感的に関わること**の重要性を学ぶことができました。

フリースクールの取組を知る

平成30年度教員特別セミナー

「不登校」から問う、教師のしごと

ー教育相談＜初級＞＜中級＞講座発展研修ー

11月22日（木）、12月6日（木）

※本年度の教育相談＜初級＞＜中級＞講座いずれかの受講者で、両日程を受講できることが参加条件です。（定員10名程度）

生徒指導の機能を生かした学級づくり

生徒指導講座－学級経営力の向上を目指して－（7/13）

講師：国立教育政策研究所　生徒指導・進路指導研究センター　藤平敦　総括研究官

学校での様々な活動の中心となる「学級」。生徒指導の機能を学級づくりに生かす方法について、国立教育政策研究所　生徒指導・進路指導研究センターの藤平敦総括研究官に講義いただきました。

「自尊感情」と「自己有用感」

自尊感情：自分に対する**自己評価**が中心
自己有用感：自分に対する**他者からの評価**が中心

大切なのは**「自己有用感」に裏付けられた「自尊感情」をはぐくむこと**であり、それは集団で学ぶ中でこそ培われるということについて話していただきました。また、児童生徒の自己有用感を高めることが、児童生徒の主体的な活動の活性化や他者を攻撃する可能性の低下につながり、**誰もが安心できる集団、問題が起こりにくい集団**につながるということを学びました。

「人の役に立っている」
「人から認められている」

また、問題が起こりにくい学校の共通点など、集団づくりにつながるいくつかのヒントをいただきました。

問題が起こりにくい学校の共通点

① 情報の質と流れが良好で、課題が共有されている
② 指導方針が現状と課題を踏まえている
③ 取組における具体的な行動が示されている
④ 一部の教員のみに負担が偏っていない
⑤ 随時、取組を見直し、軌道修正されている
⑥ 教職員間での会話が多い

京都大学連携事業
児童に考えさせる授業の大切さ
～知的好奇心をくすぐる授業づくり～

８月１日（水）から３日間、**京都府教育委員会と京都大学の連携事業「京の教員特別セミナー『小学校教員理科研修』」**として、最先端の研究をされている京都大学の研究施設で講義・演習をしていただきました。

研修内容

京都造形芸術大学	名誉教授	水野　哲雄	「感覚（感性）を開き深めよう」
京都大学	助　教	白勢　洋平	「石をみる」
京都大学	教　授	柴田　一成	「宇宙を知ろう～太陽・地球～」 「夏の星座観測」
京都造形芸術大学	教　授	福　のり子	「みる・かんがえる・きく・はなす」
京都大学	教　授	永益　英敏	「おし花の世界」
京都大学	教　授	松原　誠二郎	「理科実験で事故を起こさないために」
京都大学	名誉教授	大野　照文	「教材づくり」「模擬授業」
京都大学	教　授	守屋　和幸	
京都造形芸術大学	名誉教授	水野　哲雄	

総合博物館に収蔵されている石や草花の珍しい貴重な標本を観察したり、花山天文台では木星と土星を、口径450㎜、焦点距離6,750㎜の大型望遠鏡で観測しました。また、理科と芸術の共通点から**「答えを出すことだけではなく、観察から感じたことを伝え合うことが大切である」**と、**子どもの知的好奇心をくすぐる授業改善**について学びました。

最終日は、３日間のまとめとして、学んだことを活用してグループで授業づくりを行いました。模擬授業を通して、多様な見方や考え方を取り入れた授業を構成する方法について実践力を高めました。